

橘井弥平

厳君を多蔵という。弥平氏は其次男たり。明治三十三年、年二十四歳父の壮業を扶(たす)けて共に本道に身を立てんとし、百名の移民を伴いて来たり、爾来小作人の食料給与開墾示導等に力を尽くして事業の達成を図る。然し乍ら当年未だ気候寒冷に加えて濃霧多くして收穫意の如くならず、大豆の如きは十里を離れる帯広に運搬して一俵僅かに九十銭を出でず。小作人為に墾耕を肯ぜず、浪々転々し事業経営為に大いに困憊す。

時に君是を防止せんとして三十六年同地零号線より十号線に至る殖民道路の開削工事を起して小作人に生計の資を得せしめ、而して漸次開墾の実績を挙ぐ。四十年同地に鉄道開通の恩恵を受けて急激戸口増加し、農場又頓(とみ)に開拓進みて現今十数戸分の耕地を所有し皆是を小作人に委せり。

君亦明治三十九年以来農業の傍ら新得の地に店舗を出して荒物雜貨の販売に従い、近隣の信望最も厚くして現今に至り、居住地方公共に志す事敦く、来住以来教育設備の不完を歎き、三十四年率先新得六号線に一屋を提供して私設学校を開き、自ら費を出して教員を聘し、小作人子弟教育の途を授く。是同地教育施設の先驅にして、君を以て其開祖となせり。爾来児童急激の増加を來し、独力を以て校舎を築き、敷地を出して簡易教育所を開設し、学務委員に挙げられて多年力を教育の為に捧げ、或いは衛生組合長及び伍長の職に推され、又消防組の設置に尽瘁(じんすい)奔走し其組頭に選ばれ、同地創業の礎を築きて一村繁栄に資せし処頗る多く、清水新得地方草創の功労者たり。

現今屈足ニトマップ、熊牛、然別の主要農村と新得市街との主要道路を開削し、大いに地方の交通繁栄に資せんとして独力新得、上佐幌間一里半の直通道路工事を起さんとし、是が測量請願中にあり。工費実に二万有余円を要すると云う。洵(まこと)に感ずべき美学たり。二十数年前不毛の新得に來り民を移し地を開き公共各般草創の事に尽瘁して地方発展の為に寄与せし處少なからず同地開拓の功労最も偉なり。